

日本大学櫻丘高等学校 自己評価票

本校の 目指す 学校像	日本大学の建学の精神に基づき、生徒を中核に据え、生徒1人ひとりが高い次元での自己実現に向け、大学進学に対応できる基礎学力の充実と向上を図り、集団の中における個人の存在とその責任を認識し、自分で考え、判断し、実践することが可能な能力を育成し、生徒に自立と自立の精神をもってあらゆる物事に積極的に取り組んでいく姿勢を身につけさせることができる学校。
-------------------	--

本校の 特長及 び課題	<p>本校は、文理学部の併設校である。1年次には文理学部の希望する授業を2学科聴講できる「体験授業」、2年次からは文理学部のみならず法学部と経済学部での正規の授業が履修できる「高大連携教育」制度などの特長を持つ。</p> <p>大学付属としての立場に甘えない、基礎学力の充実と向上に向けた学習習慣の確立。規律・規範意識と責任の重要性の自覚並びに節度ある生活習慣の確立。加えてこれらを支え達成させるための教職員集団のスキルアップと指導方針・指導体制の一元化を図る。</p>
-------------------	---

平成22年度の取組結果

〔概況〕			
平成22年度の各分掌の取組目標は、概ね達成されたと考える。しかしながらC・Dの評価項目もあり引き続き取り組みが必要であるが、施設面など大規模な改築が必要となる項目もあり、早期の実現が難しい現状もある。			
このような達成状況の反省をふまえ、次年度目標に向け各部署が連携をはかり課題に取り組んでいきたい。			
評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	※達成状況
教育活動	「教務便覧」の検討	2008年度（2009年3月発行）の「教務便覧」の変更・改正の必要部分の検討。	B
	カリキュラムの検討	平成25年度（一部24年度）実施の新指導要領に伴う新カリキュラムの検討を行う。	B
	「校内実力テスト」の新設	業者による実力テストに加え、夏休みと冬休み明けに、手作りの実力テストを実施する。	A
	成績不振者に対する手厚い指導	従来実施してきた成績不振者に対する指導を時間をかけた内容の濃いものに切り替える。	A
	「生徒による授業評価」に応える	生徒の望む、総合的に「満足度の高い授業」に向けての授業計画の立案。	B
	教員の指導技術向上のための取り組み	「教授法」などを学ぶ研修会への積極的な参加を促す。 教員間の授業参観の機会を増やす。	B
	学習習慣の確立	週・月・学期といった期間ごとの学習計画立案のための指導	A
学校生活への配慮	遅刻を減少させる	8時25分着席完了の指導。	A
	規範意識を高める 〔通学・自転車・校内秩序・携帯〕	成城警察による講演会を今年度も啓蒙的な活動（生活上の安全指導を基本に）を第1学年全生徒対象に7月中旬に実施した。	A

	指導方針の一元化	人的配置に配慮し併せて心的側面の指導。 頭髪・服装指導について学年間で調整する。 学校⇄学年⇄担任教員で足並みを揃えて、家庭との協力体制の強化を図った。	B
	家庭との協力体制	生活指導の方針を保護者会等の機会に通信文で明確に伝え、理解・協力を呼びかけた。	B
	いじめの防止	特にインターネットによるプロフやブログに対する教員側の知識全般を広げるよう努めた。	C
課外活動	課外活動の適切な指導体制の確立	各クラブとも不十分な体制・施設ながらできる限りの取り組みをしている。	C
	委員会の積極的な活動の促進	各委員会とも必要に応じて適切に委員会を開催・運営をした。また、ポスター掲示を通じて部活動の活動内容を発表する場を設けた。	B
	修学旅行の成功	綿密な計画と事前学習を充実させ、意義のある修学旅行を実施する。	A
	今後の修学旅行及び校外教育の検討	今後のコース・目的地・実施時期も含めての検討、入札も早期にかつ公平に実施する。	A
進路指導	キャリア教育の充実	1・2年生に対する、キャリアガイダンスや学部説明会を充実させ、各種資料を厳選して配布した。 3年生については従来どおり実施した。	A
	他大学入試への取り組み	各休暇期間を利用して、講習会を充実させることは概ねできた。 他大受験に対するケアは昨年度より充実した。	B
	コミュニケーション能力の育成	小論文のA評価やB評価がやや増えている。 英検の2級合格者の増加があった。	B
保健衛生	健康診断のシステム変更	業者との打ち合わせを早い時期から行えたので、問題なく実施できた。	A
	学校伝染病の周知と対応	新型および季節型インフルエンザについての扱いに関係し、その違いの理解と合わせて、他の伝染病の扱いについての共通理解を教員間で図れたと考える。	A
	看護師の土曜休暇と保健室の関係について	引き続き人員確保の努力を求めて行きたい。	C
	生徒相談に対してカウンセラーとの情報交換他	常時情報交換ができており、急がれる問題は起きていない。 「心理調査」(1年生)の実施は、生徒の内面への理解に結びついている。インターカー資格取得者については成果を上げた。	A
図書	図書館の移設	将来的に生徒会館の建て替え時に1F移設を申し入れることとして、諸般の事情もあり、本年度の移設は実現していない。	D

	図書館情報の充実と発信の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・6月21日と11月29日にブックトラックを実施。 ・DVDなど要望の多い図書の充実に努めた。 ・フロア文庫の書棚を新設し、身近に図書を配置して読書機会の向上を図った。 ・図書新聞は、教育実習生による推薦図書特集号と、図書委員作成の4号を発行した。また、長期休暇前には「夏(冬・春)休みの読書」を編集して印刷、全校生徒に配布し、啓蒙と読書意欲の増進に当たった。 	A
	図書のバーコード化の推進	図書のバーコード化に当たっては、平成年間発行図書蔵書のすべてと、昭和期の図書については昭和62年蔵書分まで遡及してデータ入力を済ませた。これにより、職員室のパソコンから図書検索が可能になっている。	A
広 報	効果的な各種学校説明会及び受験関連等の出版社へのPR活動の実施	関係業者からの日常の情報収集と連絡の徹底を図る。適切な情報管理と利用を柱に、各委員会とも連携しながら実施する。	A
	新学校案内およびポスター制作のリニューアル	新年度に入る以前から企画・計画に取りかかり、各打ち合わせ(2月中)スケジュールの設定。写真撮影のプランニングとレイアウトの検討開始や発行部数・掲示方法と場所の再検討等。	A
	新たなPR・情報配信としての携帯サイト利用	昨今の社会情勢に十分対応すべく、関係業者との連絡を密に、今年度の緊急事態対応を活かし、さらに効果的な情報発信方法と内容の検討に入る。	B
管理運営	環境整備	受付案内所の設置工事を完了し、使用を開始した。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標の取組結果

評価項目	具体的取組目標	取 組 結 果・進 捗 状 況	※達成状況
学校組織	新校舎活用実態の検証	新校舎使用2年目を迎え、今後に向けての有効的活用への方策を探る。	A
	「中学校」設置に向けた準備	各種情報の継続的な収集	D
管理運営	学内内規・申合せ事項の整備	慣習化的制度・内規・覚書などの整理・統合・変更などについて、時代に対応できる体制を検討した。	C

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

平成23年度の取組目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	「教務便覧」の検討	改訂版発行のための準備。	数年後の改訂版発行のための検討会と資料収集など。
	新カリキュラムの完成	平成24年度実施版と平成25年度実施版の完成。	平成23年5月までに24年度版を、平成23年中に25年度版の完成を目指す。
	「校内実力テスト」及び「統一プレテスト」の充実	両実力テストの実施方法や内容について検討し、完成度を高める。	テスト結果の処理方法やその後の活用について検討する。
	成績不振者に対する指導	従来から実施している成績不振者に対する指導を、一つの形だけにとらわれず、柔軟に対応する。	学期末に既習内容についての補習と理解度確認テストを実施することを基本とするが、その方法と事後の処置については、学年や教科により柔軟に対応できるようにする。
	「生徒による授業評価」に答える	生徒にとって「満足度の高い授業」とはどのようなものかをテーマに授業計画を立てる。	各教科部会を中心に授業内容を検証し、担当教員間に差（生徒の満足度の差）のない授業を目指す。
	教員の指導技術向上のための取り組み	長期休業期間（夏休み・春休み）の利用を中心に各種研修会への積極的な参加を促す。	年齢を問わず各種研修会への参加を働きかける。
	学習習慣の確立	週間・月間・学期目標計画の立案のための指導。	各学年に働きかけ、それぞれの目標を実行しやすい環境をつくる。
学校生活への配慮	遅刻防止指導	8時25分着席完了の指導。（HR開始5分前着席の徹底指導）	通年で取り組む。（学期ごとの指導の反省と評価を実施）
	模範意識を向上させる。（学校生活上の基本的事項）	STDの予防啓発講演会の実施。	第1学年全生徒を対象に6月の定期考査後に実施する。
		成城警察署の講師を招き講演会を実施。（交通安全、携帯、社会秩序等）	7月の定期考査後に実施する。
	指導方針の一元化	頭髪服装指導の基本的事項を学年間で調整し公平に実施する。	4月当初から1年間を通して実施する。
	家庭との協力体制の強化	生活指導方針を明確に伝え強力と理解に努める。	保護者会（全体会）や通信文で理解を得るよう取り組む。
	いじめ等の防止	インターネットによるブログやプロフに対する教員側の知識を一層深める。	最新情報を得るように努め、通年で取り組む。
	セキュリティーの強化	警備会社と協力して、生徒が安全に学校生活を送れるように配慮する。	通年で取り組む。
課外活動	生徒会行事の内容の充実と日程の検討	各行事毎に昨年度の反省を生かし生徒がより積極的に参加できるように内容を検討する。場所の確保を含め早めに検討し最適な日程を決定する。	早急にかつ年間を通じて行う

	委員会・部活動の活動の促進	各委員会・部活動の問題点を検証し改善に向けて取り組む。	4月より計画的に実施する。
	修学旅行の充実と成功	綿密な計画と事前学習を充実させ、意義のある修学旅行を実施する。	1年生の時期から種々の資料を利用し、学年全体で事前研修に対し計画的に取り組む。
	今後の修学旅行及び校外教育全般の検討	今後のコース、目的地、実施時期も含めての検討をする。	委員会で年間を通して検討する。
		入札も早期かつ公平に実施する。	1年次の春、秋の校外教育について検討する。
進路指導	優秀な人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学推薦者の第1志望合格者をめざす。 ・他大学受験を充実させる。 ・新カリキュラムや入試制度に対応できる進路指導部の体制を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会・進路相談・三者面談の実施 ・進路指導室の資料や問題集を充実させる。 ・23年度中に検討する。
	キャリア教育の充実	各種のガイダンスや説明会の内容の充実をはかる。	現行の行事の反省点を検討し、より良い方策を考える。
	新しい進路指導の体制を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教務情報部と協力して、新しいLANシステムを活用した情報活動を検討し、実施する。 ・各学年に対応した進路指導体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒閲覧用PCの導入。 ・進路関係の成績管理の構築 ・学年フロアや掲示板を活用
保健衛生	保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断のシステムが問題なく実施できた。平成23年度は、歯科検診を除き継続実施となった。 ・感染症の理解が教職員により浸透できるようにしたい。 ・看護師が土曜日隔週休暇であるので、土曜日は保健室が機能しない現状が続くのは問題である。 ・インフルエンザ等を中心に、疾病予防に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月中にはほぼ完了したい。 ・年間を通して随時行う。 ・手洗い、うがいを年間通して推奨していく。
	生徒相談	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きカウンセラーとの情報交換を実施する。 ・カウンセラーは男女でお願いできるようにする。 ・「心理調査(テスト)」を本年度も実施する。 ・インターカー取得者および研修会に随時参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時行う。 ・生徒相談室での個人情報および、心理調査の管理には十分注意する。 ・5月の定期考査最終日に実施。 ・随時行う。
図書	図書館情報の充実と発信の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトラックの実施 ・フロア文庫の充実 ・長期休暇の読書・図書新聞の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 6月と11月の2回を計画。 1学期中に新着図書を配置。 各休暇前に編集、印刷して配布。

	図書のバーコード化の推進	現在のバーコード貼付から将来的にはコンピュータによる蔵書管理と貸出し業務を目指したい。	予算化に当たって折衝したい。
広 報	各種学校説明会および受験関連出版社へのPR活動の効果的な実施	関係業者からの適切な情報収集と連絡の徹底を図り、全教職員が協力・連携して行えるように各委員会と連絡を密にとり対処する。	年度当初より、昨年度の日程を素に予定等を組み、早めに担当者等の役割を決定する。
	学校案内およびポスター制作のリニューアル	部分改訂ではあるが写真内容・掲載内容を検討する。前年度の内容を参考に発行物、発行部数の検討をする。	3月初旬に業者との顔合わせ。 6月初旬には完成予定
	WEB広告や携帯サイト利用したPR活動の実施	広告媒体の変化に対応できるように関係業者と連絡をとり、有効な情報が発信できるようにする。また、緊急時に対応できるよう対処する。	年度初めより、関係業者等と打ち合わせに対応に入る。
管理運営	C A I 教室設置機器更新	平成18年度に設置した機器類の経年劣化に伴い、生徒が授業で使用する教室内設置の機器を更新する。	平成23年度授業に影響が及ばないよう配慮する。
	放送室新設	校内放送を行う環境整備のため、独立した放送ブースを確保する。	日常の放送に影響を及ぼすことなく、また、より安全にリスニング試験等が実施できるよう、なるべく早期に着手する。
	生徒食堂改修	経年による老朽化が著しい生徒食堂の内装改修及び設備更新を行う。	食堂の営業が休止となる夏季・冬季等休暇期間中に実施の予定。

中長期的目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	学力向上	各種講習や講座および体験授業を通じ生徒の学習や進学の意欲を高める。	長期休暇中だけでなく、学期中であっても柔軟に講座を設定する。
管理運営	学内内規・申合せ事項の整備	慣習的制度及び現行の内規・申合せなどの整理・統合・変更などについて、時代に対応できる体制を検討する。	現行内規等の検証継続など順次対応していく予定。
	学校施設改善計画の検討	新校舎のさらなる有効活用を含め第2期工事に向けた準備を整える。	学部との連絡を密にしながら計画を進めていく。